

北海道新型コロナウイルス感染症対策本部 第110回本部会議 記録

日 時／令和4年5月20日（金）
15：00～：15：30
場 所／本庁舎3階 テレビ会議室

【副本部長（小玉副知事）】

これより、北海道新型コロナウイルス感染症対策本部の第110回本部会議を開催します。
まず、道内の感染状況等について、新型コロナウイルス感染症対策局長から説明願います。

【古川新型コロナウイルス感染症対策局長】

資料1をご覧ください。まずスライドの1でございます。主な指標の状況について、昨日時点で、新規感染者数は今週先週比で1を下回り、人口10万人当たりの新規感染者数が、札幌市353.1人、札幌市を除く地域で329.9人、全道で338.6人と、いずれの地域でも減少が見られております。一方、療養者数は、いずれの地域も増加が見られますが、足下では増減を繰り返している状況にあります。また、病床使用率は、札幌市は21.4%、札幌市を除く地域で19.3%、全道19.9%と増減しながら、足下では概ね横ばいの状況でございます。

続いてスライドの2でございます。各圏域ごとの状況を見ますと、新規感染者数は、先週今週比が1を下回る圏域が複数みられており、特にこれまで増加が大きかった十勝圏などで減少に転じております。また、病床使用率につきましても、増加が見られる圏域がある一方で、十勝圏などで大きく減少をしております。

続いてスライド3、総評でございます。まず、医療提供体制でございますが、療養者数は、ゴールデンウィーク後増加が続いたものの、その後増減しながら、人口10万人あたり495.6人、病床使用率は増加傾向が続いたものの、ここ数日は増減をしております、全道19.9%、札幌市は21.4%、次に感染状況でございますが、新規感染者数は、ゴールデンウィークの医療機関の休診の影響などによりまして、増加が続いておりましたが、先週比では減少しております、人口10万人あたり338.6人、年代別では、30代以下が依然として約7割を占め、ゴールデンウィーク後に20代、30代の割合が大きく増加したものの、直近の足下では減少しております。一方で4月下旬以降、継続的な集団感染の発生などで60代以上の割合が増加し、1割を超える状況にあります。感染性がより高いとされておりますBA.2系統ですが、国の専門家によりまして、全国ではBA.2系統へ概ね置き換わったとされておまして、道内でもこれまでに、398件が検出され、道立保健所分の検出率は、現在82.1%、札幌市は87.5%、道内でも全国と同様の状況になったと考えられます。

次にスライド4の総評②、今後の対策です。新規感染者数は、ゴールデンウィーク前と比較をいたしまして同程度の状況で、今後の感染急拡大を防ぐため、引き続き、「普段から」「飲食の場面」「感染に不安を感じる時」における3つの行動を効果的に呼びかけを行ってまいります。ゴールデンウィーク前後で、20代、30代が増加し、現在は60代以上の増加が続いております。これまで感染拡大局面では、若年層の感染が広がり、それが高齢者等にも伝播し、医療負荷が高まった結果がございます。このため、高齢者施設等での集団感染を防ぐ取組を再度徹底するなど、丁寧な呼びかけを行い、また、高齢者等と接する際の健康管理の徹底や検査の受検など、3つの行動の実践を、市町村、関係団体とも連携

して、呼びかけを強化してまいります。また、ワクチン接種では、20代、30代をはじめとした若年層は他の世代に比べ、3回目接種率が低い水準のため、市町村や関係団体とも連携し、大学や企業等への働きかけも含め、3回目接種の呼びかけの取組を一層推進するとともに、3つの行動の実践についても周知を図ってまいります。

マスクの着用についてでございますが、屋外で気温や湿度が高くなりますと、熱中症のリスクが高まるため、人との距離が十分にある場合にマスクを外すことや、子どもは発達の状態も踏まえる必要がありますことから、一律のマスク着用を求めない取扱いをしております。こうした中、昨日、国の専門家から「日常生活における屋外と、小児のマスク着用について」というのが示されたところでございます。資料の1-2として添付してございますので、後ほどご覧いただければと思います。

続きまして、スライド5の総評3でございます。ノババックワクチンにつきましては、道のワクチン接種センターでの6月5日からの接種開始に向けまして、市町村や関係機関と連携し、周知を進めてまいります。また、ワクチンの4回目接種に向け、政省令の改正後、速やかに接種が始められるよう、各市町村へのワクチンの配分量や配分スケジュールを決定の上、通知したところでありまして、引き続き円滑な接種の開始に向け、市町村への支援に努めてまいります。

また、無料検査事業のうち、感染拡大傾向時の一般検査事業につきましては、レベル2相当以上の感染状況が継続しておりますところから、6月末まで期間を延長してまいります。

スライド6以降につきましては、何点か主要な動向等を補足説明いたします。

少しスライド飛ばしていただきまして、スライド25をご覧ください。医療施設や福祉施設での集団感染の発生状況では、総体的に発生施設が増加している中、1施設当たりの感染者数は、概ね横ばいから減少の傾向にありまして、施設内での急激な拡大には繋がっていないものの、高齢者の感染が増加している要因となっております。

続いてスライド26をご覧ください。ワクチン接種につきましては、3回目接種の状況ですが、5月18日現在、VRSベースで約306万人、接種率は58.5%、このうち65歳以上の高齢者の方は約147万人、接種率が88.2%、5歳から11歳の小児へのワクチン接種率は、1回目17.1%、2回目13.1%となっております。

スライド28をご覧ください。全道の3回目接種の年代別の状況ですが、5月18日現在、65歳以上では88.2%と高い水準にありますが、10代では、12歳から17歳の3回目接種が、3月25日から始まったこともありまして、20%に達していない状況であります。今後、順次若い世代が接種対象となってまいりますことから、接種の加速化に向けまして、道の接種センターの活用を含め、市町村の取組を更に支援してまいります。なお、各年代別の3回目接種率の推移でございますが、スライド29をご覧ください。

次にスライド30をご覧ください。道の接種センターにおきましては、現在、5月29日までの予約を受け付けておりまして、全日程において、予約枠に空きがありますことから、引き続き呼びかけを強化してまいります。

スライド31をご覧ください。現役世代や若者世代での3回目接種を加速化するため、道の接種センターで、企業や大学等の単位での団体接種の受付をしております。5月19日時点で4団体、276人から申し込みがあったところでございます。また、地下鉄の中刷り広告や、札幌市の地下歩行空間特設窓口で、道のエミシア会場のPR等、若者人口が多い札幌市との共同広報を実施しております。

次にスライド32をご覧ください。道の接種センターでは、6月から9月までの期間で、道医師会、札幌医大、道薬剤師会、道看護協会等のご協力の下、毎週日曜日に、ノババックワクチンの接種を実施することといたしました。予約受付は、5月27日金曜日の午前10時から開始いたします。対象となる方は、アレルギー等の関係から、初回接種でアストラゼネカワクチンを接種された方や、メッセージRNAワクチンの接種後に副反応が強く出た方など、道内の市町村が発行いたします1回目から3回目用の接種券をお持ちの18歳以上の方を対象としておりまして、今後詳細を周知いたします。

その他のスライドにつきましては、本日の説明に関するデータ情報でございますので、後ほどご覧いただきたいと思っております。資料1の説明は以上でございます。

次に資料2をご覧ください。資料1の「道内の感染状況等」につきましては、専門家や有識者の皆様のご意見を伺うとともに、市町村や関係団体の方々にも事前にお知らせをしております。有識者、専門家の皆様からは、概ね妥当である旨のご意見をいただいております。その主なものについてご紹介いたしますと、1のとおり、自宅療養者への医療サポートと生活支援について、引き続き迅速、的確な対応をお願いしたい、2、3、4のとおり、若い世代への3回目接種の促進などをお願いをしたい、といったご意見が寄せられておりまして、こうした面につきましては今後の対策の参考としてまいります。

私からの説明は以上でございます。

【副本部長（小玉副知事）】

次に、札幌市の感染状況について、オブザーバー出席いただいております札幌市保健所の山口感染症担当部長から、説明をお願いいたします。

【山口札幌市感染症担当部長】

札幌市の山口でございます。札幌市の感染状況につきまして、資料3に基づいてご説明をいたします。それでは、最初のスライドをご覧ください。新規感染者の1週間の合計についてであります。昨日5月19日の時点で、6,927人となっております。人口10万人当たりでは353.1人でございます。今週に入りまして週合計の新規感染者数は減少がみられ、感染経路不明割合にも減少が見られておりますが、日ごとの新規感染者数は1,000人を超える日もあり、今後の動向については引き続き警戒が必要だというふうと考えてございます。

札幌市ではオンライン上で迅速に療養判定等が行うことができる療養判定サイトなどの運用を開始しております。これによりまして、感染拡大時にも入力情報により、患者情報を適切に把握し、円滑に療養や医療に繋げることができるよう取り組んでいるところでございます。

それでは、次のスライドをご覧ください。入院患者数につきましては黄色の棒グラフでございます。昨日時点では160人となっております。直近ではこの増加が見られておりますけれども、医療機関や高齢者施設での集団感染の影響もあり、積極的な入院調整を行っているところでございます。直ちに病床が不足する状況にはありませんが、今後動向につきまして引き続き注視をしていくところでございます。重症患者数でございますが、赤の折れ線グラフでありますけれども、昨日の時点で1ヶ月ぶりに0人となっております。重症患者数については抑えられております。

それでは、最後のスライドをご覧ください。検査件数でございます。直近の1週間では

18,193件となっております。1日平均しますと約2,600件の検査を実施してございます。陽性率は昨日の時点で38.1%と4割を下回ったところでございます。今後の感染状況等の動向につきましては引き続き注視が必要でございますけれども、強い行動制限を取ることなく、社会経済活動を進めていくためにも、基本的な感染対策の徹底と、ワクチン接種の促進が重要と考えてございます。

以上です。

【副本部長（小玉副知事）】

次に各部・振興局から順次発言をお願いいたします。まず、誘客担当局長からお願いします。

【中尾誘客担当局長】

資料4、どうみん割の対象期間延長についてご報告をさせていただきます。国は本日、どうみん割の財源となっております都道府県民割の実施期間を、現在の5月31日から6月30日利用分まで延長することといたしました。これに伴い道としましても、早速本日、同日までの延長を決定いたしまして、明日正午から予約販売を開始することとしたところでございます。なお、東北との相互利用ですとか、あるいはワクチン接種などの利用条件はこれまでと同じでございます。

1枚めくっていただきまして、本件に関しまして有識者の皆様からご意見を伺ったところ、概ね皆様からご理解をいただいたところでございます。引き続き感染対策を徹底した上で事業を実施してまいりたいと考えております。

以上でございます。

【副本部長（小玉副知事）】

次に渡島総合振興局長をお願いいたします。

【田中渡島総合振興局長】

資料5に基づき説明させていただきます。函館市を含みます渡島管内の感染状況であります。新年度に向けての移動、就職、新学期等を迎え、3月中旬頃からありますが、これまでの減少の傾向から増加傾向に転じ、4月の中旬には一時的に横ばいとなりましたが、ゴールデンウィークに入り、観光、帰省等で人の動きが活発となり、連休終了後、増加傾向が顕著となっております。また今週に入り、横ばいに転じているものの、今後、夏の本格的な観光シーズンに向け、増加する観光客の対応や、海外との交流の拡大に伴います外国人対応も想定され、今後の感染状況を注視していく必要があるものと考えております。

次にゴールデンウィークの期間を含めました、管内における再拡大防止に向けた取り組みの状況でございますが、多くの観光客が訪れ、それに伴って会食機会も増加するゴールデンウィークの期間につきましては、感染リスクがより一層高まることから、普段以上に感染拡大防止対策の徹底を図っていくことが重要と考えて取組を進めてまいりました。まず、ゴールデンウィークを迎えるにあたっての取組についてでございますが、感染拡大防止行動の徹底などに係る周知啓発といたしまして、振興局幹部が直接、各市町を訪問するなどして、連休中の感染防止対策の徹底を確認し、危機意識の共有を図るとともに、主に

観光客を対象とした感染拡大防止行動の徹底を呼びかける新たなリーフレットを作成し、管内の主要なホテルや旅館、多くの観光客が訪れる道の駅などに提供し、掲示あるいは配布をお願いしたところでございます。また、感染拡大防止対策の徹底について、地域全体で取り組むため、ゴールデンウィーク直前に開催いたしました記者の懇談会におきまして、リーフレットを紹介し、地域住民の皆様への注意喚起について協力を呼びかけ、特に函館市につきましては、管内で最も人口が多く、周辺市町と生活圏が重なるほか、多くの観光客が訪れるなど、潜在的に感染率が高いことから、重点的に対策を講じていく必要があると考え、引き続き、市とも緊密に連携を図りながら、地元のFMラジオ局、FMいるかやケーブルテレビ局の協力のもと、市と振興局との共同メッセージを発信したところでございます。

また、保健所の負担の軽減を図るため、応援の職員を派遣し、疫学調査や自宅療養者への対応業務を支援してきており、この派遣をゴールデンウィークの期間中においても継続し、保健所の体制強化、機能の維持に努めてきたところでございます。

次に今後の取組でございますが、今後、夏に向け、人の動きが活発となることを念頭に置き、地域における感染の拡大を防ぐため、各市町はもちろんのこと、管内の関係団体や高等教育機関などに対しましては、「普段から」「飲食の場面」「感染に不安を感じる時」というそれぞれの場面におきます感染防止対策の徹底などの行動の再点検や、ワクチンの未接種の方への円滑な接種に係る取組について協力を依頼する文書、また管内の小中高等学校に対しましては、児童生徒に改めて、感染防止行動の徹底をお願いする文書をそれぞれ発出したところでございます。また今後、振興局のSNSのほか、CM広告など様々な媒体を活用して、周知啓発を実施する予定としており、引き続き各市町や関係団体などと協力しながら、地域一体となって、気を緩めることなく、管内の感染防止対策に取り組んで参る考えてございます。

以上でございます。

【副本部長（小玉副知事）】

このほか、ご発言はございませんか。なければ本部長から。

【本部長（知事）】

ゴールデンウィーク後、2週間が経過しました。昨日までの1週間の新規感染者数は、人口10万人当たりでは338.6人と、先週比では減少となっております。本日の新規感染者数は、2,553人であります。ゴールデンウィークをきっかけとした感染の拡大には至っていないという状況にあります。一方で、感染者数の水準であります。ゴールデンウィーク前と同程度となっております。60代以上の方々の割合が徐々に高まっています。これまでの感染拡大局面では、若年層において感染が拡大し、その後、高齢者に伝播して感染が広がってきました。今後さらに高齢者の方々に感染が広がれば、入院患者数が増え、医療への負荷が高まる恐れがあります。こうしたことに警戒をしていかなければなりません。このため、高齢者施設等において集団感染を防ぐ取組を再度徹底するとともに、普段会わない高齢者の方と接する際の健康管理の徹底などについて、市町村とも連携し、働きかけをしていただくように指示をいたします。

なお、マスク着用についてであります。先ほど報告があった取扱いを道としてはしてきているわけですが、国の専門家から昨日提言があったところであります。この提

言を受けまして、本日、厚生労働大臣が国の方針を公表するというふうにされておりますが、現時点において公表には至っていませんけど、具体的な運用に当たっての課題について、国に確認をするなど、道として対応する準備を進めてほしいと思います。

また、20代、30代の若年層については、感染者に占める割合が増加をしています。この年代のワクチンの3回目接種は、他の年代よりも低いという状況にあります。接種を加速していく必要があります。こうしたことを踏まえまして、各地方本部員においては、市町村や関係団体と連携をして、感染拡大の状況など、地域の実情に応じて3回目の接種について効果的に働きかけをしていただくようお願いいたします。

また、ノバックス社製のワクチン接種、これを進めていくため、道のワクチン接種センター、こちらを6月以降も開設をすることにいたしました。5月27日から予約を受け付けます。6月5日から接種を開始いたします。これまでワクチンの接種で副反応が強く出た方などに積極的に接種をしていただけるように、市町村や関係機関と連携し、周知を図ってほしいと思います。

最後にどうみん割でございます。これまで5月31日利用分までとしておりましたが、6月30日利用分まで延長することといたします。引き続き感染対策を徹底した上でご利用をいただくように、利用者の皆様、事業者の方々、双方への周知をしていただくようお願いを致します。

私からは以上です。

【副本部長（小玉副知事）】

本部長から指示のあったことにつきまして、各本部員は必要な対応をお願いします。
以上をもって、新型コロナウイルス感染症対策本部の第110回本部会議を終了します。

(了)